

講義名	教養特講 (ライフスキル教育)			授業形態	
担当教員	電谷 涼	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

ライフスキルとは、「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」(WHO, 1997)と定義されており、生きる力に極めて近い概念と考えられている。また、将来のライフイベントをうまく乗り越えるために必要な能力(Danish et al., 1995)とされており、直近の就職獲得を促す1つの要因となりうる可能性がある。グループワークやロールプレイ等実践を積み、自ら課題を見つ、学び、考え、主体的に行動できるようになることを目的とする。

到達目標

本学の学生が、卒業時に共通して身につけていることを求められている能力と本科目の到達目標は次のように関連している。「グループワークやロールプレイ等を通して、積極的にコミュニケーションや他者理解ができるようになる」という目標は、「『ネアカのびのびへこたれず』の精神をもった人材」、「創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材」、「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」と関連している。「ライフスキルの意味について理解し倫理的かつ建設的な態度を身につけることができる」という目標は、「自主・自立の精神を持った人材」と関連している。「ライフスキルのそれぞれの項目を理解し説明することができるようになる」という目標は、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」と関連している。

提出課題

・毎回授業後のミニレポート

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

毎回授業後に提出するミニレポートについては基本的にはResponを使用し、次の授業の冒頭で、主なコメントをいくつか紹介し、全体講評を実施する。

評価の基準

・毎回授業後のミニレポート 60%
 ・中間確認テスト 20%
 ・期末確認テスト 20%
 欠席が5回以上の場合は単位不認定とする。
 各レポートはそれぞれ指定された文字数の中で、内容を評価する。

履修にあたっての注意・助言他

この授業ではグループワークやロールプレイ等多く実施する予定である。多くのディスカッションを交わすことで、気づきを得られ向上していくことを基本とする。よって、この授業では他者との積極的に関わる姿勢が求められる。授業を通して多くの意見を交わし、仲間と共感できる心構えを持つこと。

教科書

・使用しない。

参考文献

・WHOライフスキル教育プログラム、WHO編、大修館書店、1000、4469263770

その他

必要に応じて、毎回の授業に毎に資料を配布する。その際に、参考文献はスライドに記入しておく。

授業計画

- 第1回：ライフスキル概要
- 第2回：主体性
- 第3回：セルフエスティーム
- 第4回：自己理解
- 第5回：共感性
- 第6回：目標設定
- 第7回：動機づけ
- 第8回：前半の総括と確認テストと解説
- 第9回：感謝する心を育てる
- 第10回：ストレスマネジメント
- 第11回：コミュニケーションスキル
- 第12回：問題解決
- 第13回：知識的思考
- 第14回：批判的思考
- 第15回：後半の総括と確認テストと解説

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 参考図書や授業に関連する本を読むようにしておく(毎回1時間)
 2. 授業の中で示した参考図書や参考資料などに目を通してしておく(毎回1時間)
 3. 授業で学んだことの復習や実践(毎回2時間)
- 知識を日常生活で応用するため、授業後の復習と実践にはかなりの時間を要す

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学の学生が、卒業時に共通して身につけていることを求められている能力と本科目の到達目標は次のように関連している。「『ネアカのびのびへこたれず』の精神をもった人材」、「創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材」、「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」と関連している。「ライフスキルの意味について理解し倫理的かつ建設的な態度を身につけることができる」という目標は、「自主・自立の精神を持った人材」と関連している。「ライフスキルのそれぞれの項目を理解し説明することができるようになる」という目標は、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」と関連している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業中の教員からの設問についてはリアルタイムで意見の交換、解説を行う。毎回授業後のミニレポートはResponを使用し、授業の冒頭で主な感想を紹介し、解説・講評を行う。

実務経験の有無及び活用

備考

発症・発熱して授業を受けることができない場合や、病気や慶弔など理由のある欠席などで受講できない場合には、別に課題を出すなどして対処する予定である。